

「終わりよければ」いせの会 会報45

平成24年5月3日版

電話 05966・63・5226  
ファクス 05966・63・5236

4月11日(水) 総会&例会の記録

縁(えにし)の家 19時〜21時  
出席者(11名)

男性3名、女性8名出席(委任欠席7名)でした。会員名簿は50名余ですが、元々参加できる時ならと、ゆるい会ですので、総会として成立させていただきました。

総会議事(簡略)

- 役員は、留任。  
会長(遠藤)
- 副会長(野口・美濃部・井戸坂)
- 会費繰越が、8万3456円のため、会費徴収は今回も行わずに運営。
- 月例会をこのまま、続ける
- 9月2日のシンポを企画する
- 10月20日の日赤緩和ケア対談会(柏木哲夫先生・内藤いづみ先生)に市民レベルで協力する。
- 伊勢病院の再建問題に注目していく

「ふたたび胃瘻を考える」シンポ

- 日時は、9月2日(日)午後15時設定  
会場は、日赤1階の「やまだホール」を借用申請中。
- 「日本ホスピス・在宅ケア研究会」の公募で、5万円が助成決定されました。
- 胃瘻のテーマに関して、選択に悩んだ当事者を複数名、発表者として考える。

↓関わりのある方から推薦を受ける

- 具体的な胃瘻をめぐる悩みを論議する  
加わっていただく病院医師とともに、市民との率直な意見交換を行う。
- シンポの題ですが、幅広い問題が背景にあるので、今までのを副題にして、「食べられなくなったなら、どうしますか」の主題は、どうでしょう。

5月9日(水)の例会で、9月へ向けての企画を、具体的に決めてゆきたいと思えます。19時〜21時 縁の家にて

その他の報告です

再生ノートパソコンを贈呈され、お披露目しました。会員ならどなたでも利用できます。



(以下は「つぶやき」と思召せ。遠藤)  
3月25日に、名古屋の実地医家の研究会での演題にも「食べられなくなったら、どうしますか?」とありました。その資料と記憶をひっくり返していましたら、胃瘻の問題は、それを直接見るのではなく、その背後を透かし見ると、様々な家族や社会の関係が見えてくるのだと思いました。

「本人が胃瘻を希望する例は稀です。と言ふ事は、その選択権は家族による「代理意思決定」だということです。本人が希望しないのに、家族が選択するのはなぜか。世代差のある家族が胃瘻を選ぶ背景も、

じっくり考えないとシンポにならないようですね。  
口腔ケアが在宅・入院で大事だという山梨での取り組みも知りました。歯科衛生士の牛山京子さんの働きが大きいようです。静岡がんセンターの緩和ケアでも口腔ケアが着目されています。この視点は、けっこう大事です。

この会報(ファクス)が不要の方は、お知らせください。

「終わりよければ」いせの会

〒516-0805 伊勢市御園町高向927 縁えにしの家  
Tel 0596-63-5226 Fax 0596-63-5236  
mail [homecare@amigo2.ne.jp](mailto:homecare@amigo2.ne.jp)  
ホームページ <http://amigo2.ne.jp/~homecare/>